



あすぴあ通信

2016. 7
49号



「18歳選挙権」で起こった 小平のNEW WAVE しみんかつどう

日本は議会制民主主義の国です。自分の希望や理想を実現するためには、まず議員に立候補するか、立候補する人を支持して投票するしかありません。

今年の参議院選挙から18歳の選挙権が導入され、新しい有権者が議会制民主主義に参加することになりました。いろいろな場所で若者と政治をテーマにイベントが開かれています。

小平市の公民館でも「18歳選挙権であなたが主人公になるとき」という講座が開かれ、終了後、もっと政治のことを知りたいという声が上がり、会員の年齢が16歳から23歳までというグループ「知りたい！」が誕生しました。

「きっかけは、公民館の講座。講師の池上洋通先生（NPO法人日野・市民自治研究所）の話を聞くうちに、政治について知らないことがたくさんあって、自分が無関心だったことに気がついた」と、大学生の笹瀬さん。「普通の人たちが『選挙権』を手に入れるために大変な苦労をしたことを知って、国民主権という言葉の重みを感じた」と、大学生の平野さん。彼はこの講座で、政治の話を気楽にできる面白さを知ったと言う。

「こういう話、特に今日は、戦争について調べてきたことを報告し合いましたけど、面白いですね。みんなと話しているうちに理解できるような気がする。コミュニケーションも広がっていきますね」。平野さんに誘われてきた友人は、堅苦しいと思っていた政治の話に親近感を感じているように見える。



まるい漆喰看板
は造形左官作家
村尾かずこさん
の作品
<http://kazukomu.com/>

発行：小平市民活動支援センター あすぴあ

- 1面：「18歳選挙権」で起こった
小平のNEW WAVE
- 2～3面： あすぴあ登録団体の紹介
- 4面： 講座予告、本の紹介 ほか

「憲法の講座で、条例の頭に『個』への呼びかけが必ずあることを知って、憲法は本当に国民主権だ、ということを実感した。基本的人権、男女平等、言論の自由。池上先生の授業で、私たちは憲法に守られていることを強く感じました。高校の授業では、こんなことは教えてもらえないなかった。とても新鮮な驚きでした」と、語る佐藤さんは女子大生。彼女は、授業で講義後のディスカッションの中で憲法や子どもの権利条約が遠い世界のことではなく、身近なニュースとして自分に深く関わっている、と思えたそうだ。メンバー最年少の16歳の中島さんは「18歳になったときにちゃんと選べるか危機感を感じて」この講座に応募した。

小平の市民活動には珍しい、若い世代が大半を占める「知りたい！！」。メンバーに共通するのは、政治の話は面白いし、政治の話を共有できる仲間がいるのが楽しいということ。

7回の講座が終わっても、まだまだわからないことがいっぱいの政治や世の中の問題に、小平の若き論客達がどう挑んでいくのか、楽しみです。



◆ 参議院選挙が行われた7月10日。小平の「知りたい！！」のメンバー3人と、18歳で初めて選挙を体験した自由学園と国分寺高校の生徒達が集まって、投票を終えての、それぞれの思いを語り合った。

自分達の気持ちを偽らずに、理想により近い人を選ぶ難しさ。大事なのになぜか敬遠される政治を、もっと身近にするにはどうしたらいいのか？ 率直な意見がとびかい、政治を語る面白さを全員が体感したようだ。特に自由学園で行われている、全生徒から投票で選ばれた生徒たちが学校と寮での生活を運営していく「生徒による自治」には衝撃を受け、「知りたい！！」のメンバーも「もっと詳しく知りたい。今度うちのグループに遊びに来て」と、興味津々のようだった。

自然体で楽しそうに投票について話す若者達の中には、何かが少しずづほどけていくような開放感があり、それがとても魅力的だった。(S)